

2. 取組を進めるに当たり困難であった事例について

E. 学習・研究環境の改善

④ICT 技術を利用した遠隔教育の推進

《医療系》

●岡山大学医歯薬学総合研究科機能再生・再建科学専攻

「医療系大学院高度臨床専門医養成コース」の事例

(具体的に何を実施し、何が困難であったのか)

学生用の電子ポートフォリオシステムに加えて、学務支援システム、教員支援システムを構築し、事務系職員や教員の作業効率を向上させるための大学院機能の電子化を積極的に進めた。また、研究方法論基礎と研究方法論応用の授業内容については、授業風景をビデオでプレビューする機能を電子ポートフォリオシステムに加えることにより、学生の科目選択を助けるための情報提供を行った。しかし、歯学系は完全実施されたが、その学務の複雑さから医学系に向けて電子化を拡充することが取組実施期間内では難しかった。

(苦労したこと、困難であったことの具体的な要因は何だったのか、それにより実施内容がどのような影響を受けていたのか)

本ポートフォリオシステムは、本取組に特化した形で臨床専門医コースを中心に構築されている。従って、本格実施に向けて歯学系や医学系の一般コースを含めた大学院全体に拡充しなければ、徹底した実施が難しい。徹底した実施に向けた努力をしなければ、紙ベースの旧体然とした学務システムに後戻りする。現在は、歯学系の臨床専門医コース、一般コースのみで運用を開始して問題点の抽出作業を行っているが、医学系、薬学系への応用が遅れていることは否めない。その理由は、学系間で学務の管理が非常に複雑で、これを全部電子化し、間違いのない運用を行うためには、人的、経済的資源とともに、時間が必要であったからである。

(どのように対応し、どのような結果が得られたのか、また、その結果が望ましいものではなかった場合、あらかじめどのように対応していれば適切であったのか、どうすればより良い結果を導くことができたのか)

歯学系の十分な試用を経て、医学系の臨床専門医コースや一般コースに向けて拡充する必要がある。このためには追加投資とこれを運用するための人的資源が必要である。また、本年は薬学系の6年化に伴う博士課程の開設時期に当たる。この薬学系の臨床実習に対応するためには、さらに大学本部の経済的支援が欠かせないため、学長裁量経費〔学内教育 COE 経費〕によるサポートを頂いている。